

市町村名	今帰仁村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-①	人材育成事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－（3）－イ			
					豊かな心とたくましい体をはぐくむ教育の推進			
担当部課名	教育委員会　社会教育課		事業実施 （予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－3－（1）		
事業内容	小学生を対象に、山形県酒田市の児童生徒と将来の指導者育成の為、交流事業を行う。南国沖縄県にとって、本州の北に位置する東北地方はまさに「異文化」であり、異なる環境で生活している同年代との交流を行うことにより、子供達の視野の広がり及び教養に対する意欲と将来に向けての刺激を与える。							
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）							
実施方法	■直接実施　　■委託　　□補助　　□負担　　□その他（　　）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,934	5,142	5,187	5,687	4,872	
		(b) 予算現額	4,894	5,076	5,138	5,227	4,800	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 40	▲ 66	▲ 49	▲ 460	▲ 72	
		(d) 繰越額	－	－	－	－	－	
		A. 計 (b+d)	4,894	5,076	5,138	5,227	4,800	
	B. 執行済額		4,894	5,076	5,138	5,227	4,800	
	うち交付金充当額		3,915	4,060	4,111	4,181	3,840	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		委託料及び施設使用料の減額により、事業間流用により適正に執行した。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	・派遣生徒数：36人	目 標	(36人)	(36人)	(36人)	(36人)		
		実 績	36人	35人	35人	35人		
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成状況説明	・病気のため1名辞退者が出た。 ・山形の文化に触れ、民泊や体験学習等をとおして交流することが出来、見聞を広めることが出来た。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （30年度）
	・酒田市鳥海小学校との交流会の実施 ・酒田市内での民泊の実施 ・スキー体験の実施 ・報告会の実施（1回）	目 標	()	（小学校との交流 ・民泊の実施 ・スキー体験 ・報告会	（小学校との交流 ・民泊の実施 ・スキー体験 ・報告会	・小学校との交流 ・民泊の実施 ・スキー体験 ・報告会 ・保護者アンケート実施	()	
		実 績		・小学校との交流 ・民泊の実施 ・スキー体験 ・報告会（1回）	・小学校との交流 ・民泊の実施 ・スキー体験 ・報告会（1回）	・小学校との交流 ・民泊の実施 ・スキー体験 ・報告会 ・保護者アンケート実施		
	【H30成果目標】 交流を通じて児童生徒の他文化に対する視野が広がったか（80％以上）を含め、保護者に対するアンケートにより、本事業を検証する。	目 標					80%	
	進捗状況説明	・参加者は、派遣後、報告会において団員の個人のテーマ、班のテーマの自己評価を各自発表した。 ・山形県と沖縄県の文化の違いを話し合い、研修の振り返りを行った。 ・報告会時に保護者アンケートを実施し、「本研修に参加することで、お子様の成長が感じられましたか？」の問いに対し、目的意識や責任感が増してきたように感じられる等、全体の80％の保護者が感じると回答があった。 ・参加者全員の報告書の作成を実施した。 ・交流会については、予定を変更し鳥海小学校ではなく広野小学校と行った。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○沖縄では馴染みの少ない大浴場や飛行機電車の利用マナーを身につけるとともに、先方の児童と円滑に交流するためのコミュニケーション力を高める必要がある。 ○山形県の異文化について理解を深め、児童個々の自主的な行動を促す必要がある。 ○家庭でも、研修への意欲を高める意識付けを促す必要がある。	○事前研修において、利用マナーとコミュニケーション能力の向上について指導するとともに、山形県の文化や歴史等について学習する。 ○家庭での取り組みとして、子どもの成長を助長するためにコミュニケーションを図る。
今後の取り組み方針		
○引き続き、事前研修でのマナー指導やコミュニケーション指導を行うことで、現地で効果的に交流を行えるようにプログラムを工夫する。 ○児童一人一人の視野を広げ、自主性を育むため、山形県の文化や歴史等についての学習を更に充実させる。 ○家庭でのコミュニケーションの取り組みを実践するとともに、研修成果を確認するため引き続き保護者アンケートを実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
5,196	4,800	3,840	960	396

今帰仁村
4,800千円

委託料
4,049千円

事務費
751千円

名護ツアーセンター
4,049千円

ほか、児童の食事負担分
(対象外経費) 396千円

報償費
440千円

需用費
231千円

役務費
58千円

使用料及び賃借料
22千円

今帰仁村「ふれあい少年の翼」実施に
関する旅行委託業務

今帰仁村「ふれあい少年の翼」実施に関
する事務費

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 旅行委託契約については、入札参加願が無かったため、見積り合わせにより随意契約として執行した。 ○ 予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○ 将来の指導者育成の為、小学生を対象とした交流事業を行う目的の為の支出であり、関係する書類等を検証した結果適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村												
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】														
事業番号・事業名	1-②		教育環境充実事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア								
						確かな学力を身につける教育の推進								
担当部課名	教育委員会 学校教育課		事業実施 (予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－3－(1)							
事業内容	児童生徒に対し、個々に応じたきめ細かなサポートを行うため、幼稚園に特別支援員、小中学校にそれぞれ学習支援員と特別支援員を配置する。													
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)													
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()													
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)	予算 の 状 況		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度			
			(a) 当初予算額		17,263		21,353		29,770		33,226		23,655	
			(b) 予算現額		16,826		19,855		21,294		33,226		14,138	
			(c) 増減額 (b-a)		▲ 437		▲ 1,498		▲ 8,476		0		▲ 9,517	
			(d) 繰越額		－		－		－		－		－	
	A. 計 (b+d)		16,826		19,855		21,294		33,226		14,138			
	B. 執行済額		16,826		19,855		21,294		19,369		14,138			
	うち交付金充当額		13,460		15,844		17,035		15,495		11,311			
	次年度繰越額		0		0		0		0		0			
	執行率 (％) (B/A)		100.0%		100.0%		100.0%		58.3%		100.0%			
予算の状況の説明			・幼稚園(預かり保育)と小学校特別支援員の減により、当初予算より流用で9,517千円の減額となったが、事業計画等は適正に進めることができた。											
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況										
	支援員(預かり含む)の配置人数 ・幼稚園 (特)3人 ・小学校(学)3人 (特)5人 ・中学校(学)1人 (特)1人			目 標	(幼(学)0人(特)1人 小(学)3人(特)6人 中(学)1人(特)1人)		(幼(預)4人(特)0人 小(学)3人(特)8人 中(学)1人(特)1人)		(幼(預)4人(特)0人 小(学)3人(特)8人 中(学)1人(特)1人)		(幼 (特)3人 小(学)3人(特)5人 中(学)1人(特)1人)			
				実 績	幼(学)0人(特)0人 小(学)3人(特)7人 中(学)1人(特)1人		幼(預)0人(特)1人 小(学)3人(特)7人 中(学)1人(特)1人		幼(預)0人(特)2人 小(学)3人(特)6人 中(学)1人(特)1人		幼 (特)1人 小(学)3人(特)4人 中(学)1人(特)1人			
				目 標	()		()		()		()			
				実 績										
	達成状況説明	・幼稚園については、当初3人配置を計画していたが、対象幼児が見込みよりも少なかったため、1人の配置となった。 ・小学校については、当初5人配置を計画していたが、対象児童が見込みよりも少なかったため、4人の配置となった。 ・その他の支援員については、当初計画通り配置を行った。												
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)					
	・児童生徒の学力や学習意欲の向上 ・児童生徒が困ることなく、学校生活を送れるようにサポートを行う。			目 標	()	(学力や学習意欲の向上 ・児童生徒へのサポート)	(学力や学習意欲の向上 ・児童生徒へのサポート)	(学力や学習意欲の向上 ・児童生徒へのサポート)	()					
				実 績		学力や学習意欲の向上が図られた。 ・児童生徒へのサポートを行った。	学力や学習意欲の向上が図られた。 ・児童生徒へのサポートを行った。	学力や学習意欲の向上が図られた。 ・児童生徒へのサポートを行った。						
	【H30成果目標】 沖縄県学力到達度調査における、県と本村との平均正答率の差 ①小学生 -2.4ポイント以上 ②中学生 -4.0ポイント以上			目 標					①小学生 -2.4 ②中学生 -4.0					
	【H30成果目標】 対象となる児童生徒が学校生活や学習上の困難の改善を図ることができたか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方を検証する。			目 標					80%					
進捗状況説明	・学習支援による学習面へのサポートだけではなく、特別支援による児童生徒への精神面への寄り添いなどにより、学校生活を送る上で子どもたちは少しずつ成長している。													

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・学習支援員および特別支援員は学校経営上なくてはならない存在となっているが、対象児童生徒の数は年々増加の一方であるため、きめ細かい対応まで至っていない部分も見受けられる。	・園児、児童、生徒の成長を保護者や教員、そして支援員で随時情報交換し、状況を把握しながら、支援の必要なところには適切に配置、サポートする。また、きめ細かい対応が実施できるよう取組を検討する。
今後の取り組み方針		
・園児、児童、生徒の成長を保護者や教員、そして支援員で随時情報交換を行い、状況を把握しながら、支援の必要なところには適切に配置、サポートしていきけるよう努める。また、学習支援ボランティア（大学生）と連携を取り支援体制を強化するとともに、学習支援員、特別支援員の個々の処理能力を高めるために事前研修を実施する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>16,736</td><td>14,138</td><td>11,311</td><td>2,827</td><td>2,598</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	16,736	14,138	11,311	2,827	2,598
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
16,736	14,138	11,311	2,827	2,598										
今帰仁村 14,138千円 → 共済費 1,824千円 → 支援員の共済費（10人） 1,824千円 （幼稚園（特別支援1人） 小学校（学習支援3人 特別支援4人） → 賃金 12,314千円 → 支援員の賃金（10人） 12,314千円 （幼稚園（特別支援1人） 小学校（学習支援3人 特別支援4人） ※交付対象外経費2,598千円 （長期休暇及び支援以外の業務に係る賃金）														
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○特別支援員については、ハローワークにて公募し面接で決定している。学習支援員においては、「教員免許の所持」を条件としてさだめており、適切かつ妥当な選定である。 ○予算規模については、必要人員が確保出来ず不要額が生じた。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村						
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	中高生海外語学留学支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育推進	
						Ⅲ－3－(1)	
事業内容	英語への関心・意欲を高め国際感覚豊かな人材を育成するため、本村の中高生の海外ホームスティを行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,992	1,992	2,126	2,562	2,563
		(b) 予算現額	1,979	2,125	2,938	3,904	2,709
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 13	133	812	1,342	146
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	1,979	2,125	2,938	3,904	2,709
	B. 執行済額		1,979	2,125	2,938	3,904	2,709
	うち交付金充当額		1,583	1,700	2,350	2,813	2,167
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		・中学生2人、高校生4人で計画していたが、予算流用により高校生の2人分を増額し執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	・留学生徒数 ・中学生:2人 ・高校生:4人	目 標	(中学生:3人 高校生:2人)	(中学生:2人 高校生:4人)	(中学生:2人 高校生:4人)	(中学生:2人 高校生:4人)	
	実 績	中学生:2人 高校生:3人	中学生:2人 高校生:6人	中学生:2人 高校生:6人	中学生:2人 高校生:6人		
達成状況説明	・中学生2人を米国ハワイ州へ、高校生6人を米国ジョージア州へ、それぞれ2週間派遣した。 ・ミルトン高校の姉妹校締結により、関係者からのニーズに基づき、高校生2名を増員した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	・中学校、高等学校において、帰国後の海外短期留学報告会を全生徒、保護者、地域の方等の参加のもと開催し、留学の成果を広げ発信する。	目 標	()	通訳ボランティア活動の実施	中高生留学帰国者による留学成果の実施	中高生留学帰国者による留学成果の実施	()
		実 績		通訳ボランティア活動の未実施	中高生留学帰国者による留学成果の発信	中高生留学帰国者による留学成果の発信	
	・報告会参加者や派遣者に対しアンケート調査を実施し、今後の活動に役立てる。	目 標	()	()	()	(実施)	()
		実 績				実施	
	【H30成果目標】 帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業を検証する。	目 標					80%
進捗状況説明	・各学校での全体集会にて研修内容等の発表を行い、異文化を肌で感じる意義、複眼的な視点での考え方を伝え好評を得た。また村学力向上推進大会にてPTA及び村民に対し、プロジェクトを用い研修、交流等の説明と異文化交流の有意性を伝えた。その他活動として、今帰仁城跡桜まつりでの外国人観光客の通訳ボランティア活動、古宇利ハーフマラソンでの外国人観光客の通訳ボランティアを実施し、他生徒へ同事業参加の意義・成果を伝えられた。 ・参加理由や目的達成結果・理由、研修後の態度や物の見方の変化、来年の参加者へのアドバイス等のアンケート調査を実施した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	①英語への関心、意欲を高め国際感覚豊かな人材を育成するため、PTA及び村民へ、本交流事業について更に理解を促す必要があるが、各学校での全体集合の報告だけでは、十分ではないと思われる。 ②当事業を、派遣生の英語学習へのチャレンジ精神に繋げる必要がある。	①各学校での全体集合報告のほか、村学力向上推進大会でも、事業についての説明及び報告を行う。 ②実用英語技能検定に積極的に参加するよう促す。
今後の取り組み方針		
①村学力向上推進大会にてPTA及び村民に対してプロジェクターを用いて説明を行い、チャレンジする意欲のある中高生にチャンスを与え、英語学習への関心及び意欲向上を図るため、本事業の有意性を伝える。 ②実用英語技能検定の受験について、説明会等で周知する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>4,279</td><td>2,709</td><td>2,167</td><td>542</td><td>1,570</td></tr></table> 今帰仁村 2,709千円 委託料 2,709千円 (株)沖縄タイムスサービスセンター 811千円 公益社団法人 日本国際生活体験協会 1,898千円 今帰仁村中学生海外語学留学支援に係る委託業務 生徒負担分（交付対象外経費） 2名 × 101.5千円＝203千円 沖縄県立北山高等学校交流支援に係る委託業務 生徒負担分（交付対象外経費） 6名 × 227.8千円＝1,367千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,279	2,709	2,167	542	1,570
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,279	2,709	2,167	542	1,570										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○中学生の海外ホームステイは(株)沖縄タイムスサービスセンターのみが実施しているため選定方法は妥当であった。また、高校生海外留学も公益社団法人 日本国際生活体験協会を選定し事業を行い妥当だと考える。 ○当初より146千円増額を行い増額予算の範囲内で執行、予算規模については適正だと考える。 ○総事業費の2割相当額(1,570千円)を自己負担(交付対象外経費)としている為受益者負担は妥当と考える。 ○費目・使途については、個人負担分を徴収し食糧費等に使用し、交付対象事業費は、語学留学支援や交流事業費に使用し適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	今帰仁村							
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1－④	児童生徒等の県外派遣事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－(2)－ア			
					教育機会の拡充			
担当部課名	教育委員会 社会教育課		事業実施 (予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－3－(1)		
事業内容	県外の人との競争や交流の機会を増やし児童生徒の視野を広げるため、村内児童生徒が、各種スポーツ大会や文化関係大会に参加するための県外派遣の費用を支援する。							
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)							
実施方法	□ 直接実施 □ 委託 ■ 補助 □ 負担 □ その他 ()							
予算額・執行額 【単位：千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,200	2,200	2,200	2,200	1,000	
		(b) 予算現額	2,045	2,335	1,260	1,050	1,000	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 155	135	▲ 940	▲ 1,150	0	
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	-	
		A. 計 (b+d)	2,045	2,335	1,260	1,050	1,000	
	B. 執行済額		2,045	2,335	1,260	1,050	894	
	うち交付金充当額		1,636	1,868	1,008	840	715	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	89.4%	
	予算の状況の説明		・児童生徒が県外で開催される運動競技会等に参加する際の派遣費用の補助金申請に対して適正に審査し補助金の金額を確定している。不用額106千円は、派遣人数が目標値を下回ったためである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	・村内児童生徒等のスポーツ文化大会等への派遣費を補助する		目 標	(① 20人 ②156人)	(派遣費を補助)	(派遣費を補助)	(派遣費を補助)	
			実 績	①19人 ②98人	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施	
達成状況説明	・運動競技会21件(73人)の派遣費用の補助を実施した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	派遣生徒数 ①県外少年団野球大会(20人)	目 標	()	(① 20人)	(① 20人)	(① 20人)	()	
		実 績		① 0人	① 16人	① 0人		
	②県外スポーツ大会(90人)	目 標	()	(②120人)	(②100人)	(②90人)	()	
		実 績		②105人	② 76人	② 74人		
	【H30成果目標】 県外の人との競争や交流を通じて児童生徒の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケートにより、本事業を検証する。		目 標					80%
	進捗状況説明	①県外少年団野球大会派遣人数が目標20人(1チームの登録人数)に対し派遣実績は0人で、目標値を下回る結果となった。 ②県外スポーツ大会等派遣人数が目標90人に対し74人で、目標値を16人下回る結果となった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	①県外少年野球大会への派遣20人を見込んでいたが、予選大会で派遣基準の成績を収めることができず、目標値を達成することが出来なかった。 ②県外スポーツ文化大会等派遣人数が派遣目標に届かなかった原因は、各種大会等において大会要項等による派遣条件の成績と推薦を収めなければならないが、前年度派遣団体個人件数が21件で本年度は17件の出場権獲得に留まったためである。	①②本制度の助成を受けるには、大会やコンクールなどで県外派遣条件の成績を収めることが必須である。毎年度安定的に児童生徒を派遣できるよう各団体組織の運営・指導方法を検証し取組んでいる。しかしながら、年々で個人・団体の特徴があり、得意・不得意な点が違うので時機や過程を見計らい関係者が適切な運営・指導に取組む。
今後の取り組み方針		
①②県外派遣条件の成績を収めるために、各団体組織の運営・指導方法を検証したうえで強化策を立案し実践する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>894</td><td>894</td><td>715</td><td>179</td><td>0</td></tr></table> 今帰仁村 894千円 補助金 894千円 補助金申請団体 (17個人団体) 村内児童生徒が県外の各種スポーツ文化大会に参加する際の派遣旅費					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	894	894	715	179	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
894	894	715	179	0										

資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各団体の申請に基づき審査を行い、選定を行っている ので妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、106千円の不用額が生じたが、適 正に執行している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金要綱に基づき航空運賃の補助(補助率1/2)を 行っており、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、その大会実績による派遣費補 助の観点から必要なものであり適正である。

市町村名	今帰仁村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-①	環境保全美化推進事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ		
				観光客の受入体制の整備				
担当部課名	住民課 経済課 建設課 教育委員会		事業実施 （予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－（1）		
事業内容	本村の観光拠点である今帰仁城跡を中心とした観光地及び観光ルートの美化を実施し、観光客受入体制を整える。 また、地域環境の保全、地域住民及び観光客の安全と誘客を図り景観を保全するため、不法投棄のパトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の対策を強化する。							
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度（ 年度）							
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他（ ）							
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	50,120	32,728	30,694	27,668	23,747	
		(b) 予算現額	48,672	35,097	32,961	27,666	24,830	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,448	2,369	2,267	▲ 2	1,083	
		(d) 繰越額	－	－	－	－	－	
		A. 計 (b+d)	48,672	35,097	32,961	27,666	24,830	
	B. 執行済額		48,672	35,097	32,961	27,666	23,615	
	うち交付金充当額		38,937	28,077	26,369	22,132	18,892	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	95.1%	
予算の状況の説明		当初予定していた共済費、賃金を11ヶ月分を12か月分に変更したため、流用で予算1,083千円を増額した。 年度途中での作業員1名欠員等により1,215千円不用額が生じた。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）			達成状況				
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	・村内の観光地の美化作業の実施	目 標	（ 観光地の美化作業の 実施 景観保全の実施 ）	（ 観光地の美化作業 の実施 景観保全の実施 花植え付けの実施 ）	（ 観光地の美化作業 の実施 松並木の景観保全 の実施 ）	（ 観光地の美化作業 の実施 ）		
		実 績	観光地の美化作業の実施 景観保全の実施	観光地の美化作業の実 施 景観保全の実施 花植え付けの実施	観光地の美化作業の実 施 松並木の景観保全の実 施	観光地の美化作業の実 施		
達成 状 況 説 明	・観光ルートのハブ駆除対策、不法投棄パトロール、投棄物の回収等を実施した。 ・今帰仁城跡、古宇利島を中心とした観光地及び観光ルートの美化を実施した。 ・今帰仁グスク桜まつりや古宇利島ハーフマラソンなど各種イベントで参加者が利用する施設や道路の美化作業を実施した。 ・今帰仁城跡を中心とした観光地及び村内文化財の危険木の伐採を実施し、台風襲来前に撤去することで、台風の被害を少なくすることができた。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （30年度）
	・今帰仁城跡及び観光地の美化	目 標	（ ）	（ 実施 ）	（ 実施 ）	（ 実施 ）	（ ）	
		実 績		実施	実施	実施		
	・観光ルートの美化（20路線） 累積整備率（121路線）60％	目 標	（ ）	（ 20路線 50％ ）	（ 20路線 60％ ）	（ 20路線 60％ ）	（ ）	
		実 績		20路線 50％	20路線 60％	20路線 60％		
	【H30成果目標】 今帰仁城跡及び観光地等の美化を行い、観光地として魅力的な景観が確保されているか（80%以上）を含め、観光客等に対するアンケート調査により、本事業のあり方について検証する。	目 標					80%	
	進 捗 状 況 説 明	・今帰仁城跡、古宇利島を中心とした観光地及び観光ルートの美化を行うことで、快適な観光地への誘客へつなげることができた。 事業を継続的に行うことによって、タイワンハブ拡散の抑制を図り、また不法投棄パトロールや不法投棄防止看板設置等によって不法投棄抑制を図ることで、本村の魅力アップへとつなげることができた。 ・今帰仁城跡を中心とした観光地及び村内文化財の危険木の伐採を実施し、観光客の受入のための快適な環境を整えることができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光客の増加に伴い、宿泊所や飲食店、観光客が訪れる場所や道路が増加しており、近年ではゴミのポイ捨てが問題となっている。 ・夏になると草の成長が早く、草刈り等の美化作業が間に合わない箇所があった。	・村内の観光ルートを正確に把握し、観光ルートにおける不法投棄対策やポイ捨てゴミのパトロールや回収活動を強化していく。 ・今帰仁城跡での草刈り作業員が不足しているため、人員を増やす。
今後の取り組み方針		
・年度実施している宿泊実態調査や地域住民からの情報収集により、観光客が訪れる場所や道路を把握し美化作業に繋げる。 ・今帰仁城跡での草刈り作業員を3名増員する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>23,615</td><td>23,615</td><td>18,892</td><td>4,723</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	23,615	23,615	18,892	4,723	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
23,615	23,615	18,892	4,723	0										
今帰仁村 23,615千円	共済費 2,290千円	賃金職員の共済費 11人	〔環境保全美化推進に係る共済費〕											
	賃金 16,391千円	賃金職員 11人	〔環境保全美化推進に係る賃金〕											
	需用費 2,834千円	燃料代・消耗品代等 (3,069千円-235千円=2,834千円)	〔ハブ等販売料(雑入・△235千円)を需用費と相〕											
	役務費 30千円	家電リサイクル代・ タイヤリサイクル代	〔環境保全美化推進に係る役務費〕											
	委託料 918千円	危険木の伐倒	〔環境保全美化推進に係る委託料〕											
	使用料 944千円	車リース料 機械使用料	〔環境保全美化推進に係る使用〕											
	原材料費 118千円	砂・バラス・道路補修材等	〔環境保全美化推進に係る原材料〕											
	備品購入費 90千円	草刈機(3台)	〔環境保全美化推進に係る備品購入〕											
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○当該事業に精通した北部管内の業者を選定し見積もり合わせ行い、最低価格者と随意契約を締結しており支出先選定関しては妥当と考える。 ○予算規模に関しては事業に必要なものに限定しており、適正な規模であると考ええる。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○快適な観光客受入の観点から支出等は適正と考える。											

市町村名	今帰仁村										
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	2-②		観光力基盤強化事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ア			
	経済課 総務課 建設課				事業実施 (予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
担当部課名								Ⅲ－1－(1)			
事業内容	今帰仁村の観光地としての知名度アップを図るため、「現代版組踊 北山の風」、総合まつり、ハーリー、桜まつり、いいなまつり等の実施に対して補助する。										
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)										
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)	予算 の 状 況				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
			(a) 当初予算額		25,550	24,300	20,530	18,000	13,705		
			(b) 予算現額		29,374	29,300	21,929	22,053	13,705		
			(c) 増減額 (b-a)		3,824	5,000	1,399	4,053	0		
			(d) 前年度繰越額		－	－	－	－	－		
	A. 計 (b+d)		29,374	29,300	21,929	22,053	13,705				
	B. 執行済額		29,374	29,300	21,929	22,053	13,626				
	うち交付金充当額		23,499	23,440	17,543	17,641	10,901				
	次年度繰越額		0	0	0	0	0				
	執行率 (％) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.4%				
予算の状況の説明		・台風の影響で開催できなかった今帰仁総合まつりの2,100千円とハーリー大会減額の498千円を、ほぼ古宇利ハーフマラソン及び桜まつりに充てて事業を執行した。									
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29成果目標(指標)				達成状況						
						26年度	27年度	28年度	29年度		
	①現代版組踊「北山の風」開催(8月・11月・2月) ②古宇利ハーフマラソン開催(4月) ③今帰仁城跡ライトアップ・桜まつり開催(1月)		目 標	各種イベントの開催支援	〔 ①8月・10月・2月 ②4月 ③1月 〕		〔 ①8月・10月・2月 ②4月 ③1月 〕		〔 ①8月・11月・2月 ②4月 ③1月 〕		
			実 績	各種イベントの開催支援	①11月(2回)・2月(2回) ②4月 ③1月		①7月(2回)・10月(2回)・11月(1回) ②4月 ③1月～2月		①10月(2回)・3月(2回) ②4月 ③1月～2月		
	④今帰仁総合まつり開催(10月) ⑤今帰仁ハーリー開催(9月) ⑥三村交流事業開催(11月)		目 標		〔 ④10月 ⑤ 8月 ⑥11月 〕		〔 ④10月 ⑤ 8月 ⑥11月 〕		(④10月 ⑤ 9月 ⑥11月)		
			実 績		④10月 ⑤9月 ⑥11月		④10月 ⑤10月 ⑥11月		④台風中止 ⑤10月 ⑥11月		
	達成状況説明	・現代版組踊、古宇利ハーフマラソン、さくら祭り、総合まつり、今帰仁ハーリー、三村交流事業については、台風の影響で中止となった総合まつりを除き実施及び開催ができた。									
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)					基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
		①現代版組踊「北山の風」来場数		目 標	()		〔 ① 1,200人 ② 3,500人 ③ 40,000人 〕	〔 ①1,200人 ②3,600人 ③48,000人 〕	〔 ①1,330人 ②3,700人 ③43,000人 〕	()	
				実 績			① 1,288人 ② 3,471人 ③ 34,645人	① 2,302人 ② 3,555人 ③48,750人	① 1,032人 ② 3,753人 ③50,651人		
④今帰仁総合まつり来場者 ⑤今帰仁ハーリー大会出場者数		目 標	()		〔 ④ 10,500人 ⑤ 825人 ⑥ 900人 〕	〔 ④ 10,500人 ⑤ 825人 ⑥ 1,000人 〕	〔 ④ 11,200人 ⑤ 730人 ⑥ 1,200人 〕	()			
		実 績			④ 9,700人 ⑤ 732人 ⑥ 900人	④ 10,500人 ⑤ 800人 ⑥ 1,100人	④ 台風中止 ⑤ 760人 ⑥ 1,300人				
③今帰仁城跡ライトアップ・桜まつり来場者		実 績									
進捗状況説明		・現代版組踊については、単独のイベント(10月・3月)のみで目標の来場者数に届かなかったものの、県外の別団体主催のイベントに参加し、知名度アップを図った。 ・古宇利ハーフマラソンについては、県外・国外からの参加者が増加し目標を達成できた。 ・桜まつりについては、天候に恵まれなかったものの、過去最大の来場者数を記録し、目標を達成できた。 ・総合まつりは、台風の影響で中止となり、目標を達成できなかった。 ・ハーリー大会は、村内の参加者が多くなったことにより目標を達成できた。 ・三村交流事業については、好評につき遊覧船の数を1隻から2隻に増やした。また、まぐろの解体ショー＆即売会を行った。									

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	・現代版組踊については、事業補助金及び自主公演でのチケット収入のみでは、経費の面で厳しい部分があるため、入場者数の確保や公演活動を拡大していくことが難しくなっている。 ・古宇利ハーフマラソンについては、定員4,000名には達しない状況にある。 ・桜まつりについては、過去最高の入場者数を記録したが、1日に偏ることなく分散させることができたため、路上駐車の問題を解決できた。 ・総合まつりは、台風の影響で中止となり、目標を達成できなかった。 ・ハーリー大会は、村内の参加は増えつつあるが村外からの参加者及び観光客を増加させるため、広報活動やプログラムの内容の充実を図る必要がある。 ・三村交流事業については、フェリー遊覧船を1隻から2隻に増やしたため、乗船者数は増加したが、悪天候の影響もあり定員に達しなかった。	・現代版組踊については、単独のイベントでは入場者数が伸びなかったものの、県外の別団体主催のイベントに参加でき、知名度アップに繋げることができた。単独のイベントでは予算も厳しい状況なので、別団体主催のイベントに参加し、知名度アップを図っていきたい。 ・古宇利ハーフマラソンについては、定員4,000名の申し込みを達成するためにSNSなどを活用したPRに力を入れていきたい。 ・桜まつりについては、来場者数をさらに分散できるようにイベントの内容・日程を検討していきたい。 ・総合まつりは、予備日を確保し開催ができるよう対処したい。 ・ハーリー大会については、観光協会や商工会などと連携を図り村内外及び観光客に宣伝・PRを行い、集客を増やしハーリーの魅力をアピールしていきたい。 ・三村交流事業については、好評であり、まつりの目玉であるフェリー遊覧船について、今後も2隻にすることで集客力の向上を図る。

今後の取り組み方針

・現代版組踊については、村外及び県外に活動の状況を広く情報発信し、関係団体等と連携を図ることで招聘されるよう活動を展開していく。併せて、村内公演も継続し、地域や子供たちへのPRを行い、組織の維持・強化に努めていきたい。

・古宇利ハーフマラソンについては、参加者数の増加を図るため、SNS等を活用したPRに力を入れていきたい。

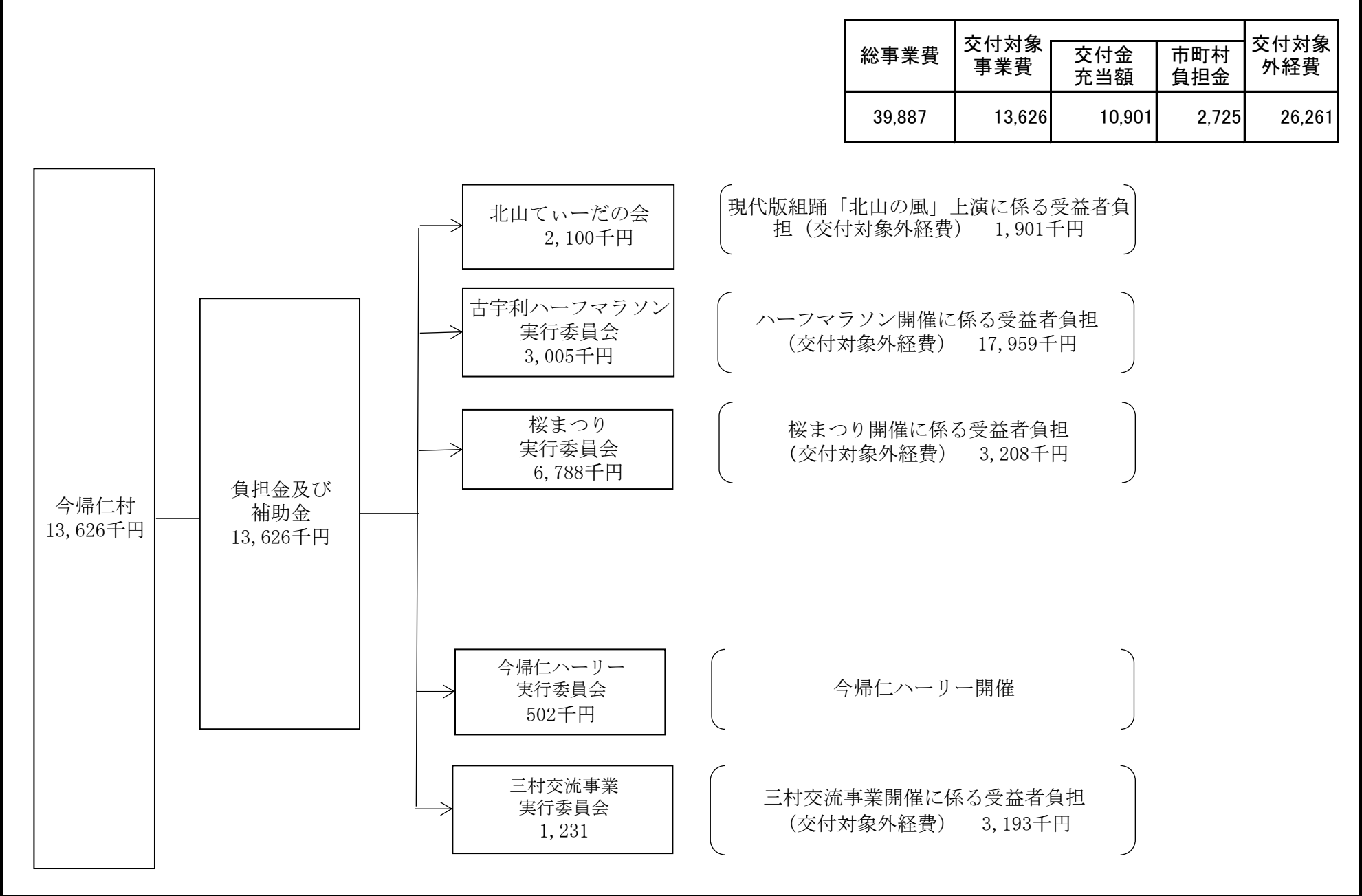
・桜まつりについては、混雑の解消に努め、来場者が安全に楽しくイベントを楽しむことができるよう体制整備を図ることでリピート率を高めていきたい。

・総合まつりは、予備日を確保し開催ができるよう対処したい。

・ハーリー大会については、観光客や民泊の方に体験ハーリーなど参加者を増加させるイベントなど、開催期間を夏休みに行い観光で訪れる客を集客できるようプログラムの充実を図り、他団体とも連携し広報活動に努めたい。

・三村交流事業は、さらに来場者を増やせるように広告・宣伝に力を入れるとともにイベントの充実を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ イベントを開催する実行委員会に限定し、選定を行っており妥当な選定だと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模については、各実行委員会でのイベントに見あった適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 補助金については、各実行委員会において、事業費の一部を負担しており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○ 各イベントの事業目的達成の観点から、費用額及び使途については必要なものであり、支出は適正であった。

市町村名	今帰仁村						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	観光地安全強化事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ		
			観光客の受入体制の整備				
担当部課名	教育委員会　社会教育課		事業実施 (予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(1)	
事業内容	世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時の車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通整理員を配置する。						
効果発現年度	■当年度　　□後年度(　　年度)						
実施方法	□直接実施　　■委託　　□補助　　□負担　　□その他(　　)						
予算額・執行額 【単位：千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,464	4,591	4,933	5,276	5,742
		(b) 予算現額	4,284	4,536	4,698	5,130	5,742
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 180	▲ 55	▲ 235	▲ 146	0
		(d) 前年度繰越額	－	－	－	－	－
		A. 計 (b+d)	4,284	4,536	4,698	5,130	5,742
	B. 執行済額		4,284	4,536	4,698	5,130	1,383
	うち交付金充当額		3,427	3,628	3,758	4,104	1,106
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	24.1%
	予算の状況の説明		・不用額4,359千円は、交通整理員の数が当初予定より少なくなったことにより、委託料が減額したためである。当初計画から変更はあったが、適正な予算執行が行えたと考えている。				
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	・交通整理員の配置：4人(12月～2月) (桜まつり期間中は12人増) ・今帰仁城跡来訪者安全対策の実施	目 標	交通整理の配置4人 (城跡来訪者の安全対策)	交通整理の配置4人 (城跡来訪者の安全対策)	交通整理の配置4人 (城跡来訪者の安全対策)	交通整理の配置4人 (城跡来訪者の安全対策)	
		実 績	交通整理の配置4人 城跡来訪者の安全対策の実施	交通整理の配置4人 城跡来訪者の安全対策の実施	交通整理の配置4人 城跡来訪者の安全対策の実施	交通整理の配置3人 城跡来訪者の安全対策の実施	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成状況説明	・当初、交通整理員を4名、桜まつり期間中においては16名を配置する計画で指名競争入札を行ったが、人員確保ができない理由で入札不調となったため、人員数を3名に変更し委託契約を行った。繁忙期(1月～3月)の車両誘導を実施し、駐車場入口や横断歩道に交通整理員を配置した。 ・桜まつり期間中は交通整理員3名だけでは対応できず、今帰仁村職員の協力を仰ぎ不足する人員を補い駐車場や横断歩道での車両誘導を実施した。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	・交通整理員の配置：4人(12月～2月) (桜まつり期間中は12人増) ・今帰仁城跡来訪者安全対策の実施	目 標	()	城跡来訪者の安全の確保	城跡来訪者の安全の確保	城跡来訪者の安全の確保	()
		実 績		城跡来訪者の安全の確保の実施	城跡来訪者の安全確保の実施	城跡来訪者の安全確保の実施	
	【H30成果目標】 交通整理員が配置された箇所における事故件数	目 標					0件
	進捗状況説明	・世界遺産今帰仁城跡に入場するには村道を横断しなければならず、特に繁忙期は人や車の往来が多くなり危険な状況である。本事業で交通整理誘導員を配置することで、安全に観光客の往来ができるようになった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成29年度はイベント期間中の入場者数が前年より増加しており、今後多くの観光客等の来訪が見込まれることから、更なる安全対策が課題である。 ・桜まつり期間中の交通整理員の人員が不足であった。不足人員を補うため村職員を配置したが、誘導に不慣れなためスムーズにいかないこともあった。交通誘導に精通した整理員が必要である。	・桜まつり期間中の安全をより確保するため、交通整理員を増員する。 ・交通整理誘導員のスキルや研修受講状況を確認して事業委託することで、安全かつスムーズな誘導が期待できる。
今後の取り組み方針		
・委託業者で実施する研修時間（30時間）を考慮し、業務委託契約を早期に余裕を持って行うことで、交通整理員の人員を確保する。 ・本業務に従事する交通整理員は、警備業法に定められた研修を受けた者とする旨を仕様書に記載する。契約の際は、有資格者の有無と資格が確認できるものを提示させる。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>1,383</td><td>1,383</td><td>1,106</td><td>277</td><td>0</td></tr></table> 今帰仁村 1,383千円 委託料 1,383千円 北部警備保障(株) 1,383千円 （今帰仁城跡来訪者安全対策にかかる委託業務）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,383	1,383	1,106	277	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,383	1,383	1,106	277	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価 ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、一般指名競争入札を行ったが入札不調により選定には至らず、当初計画の人員数を変更することで随意契約を行った。選定方法については、妥当であった。 ○予算規模については、適正規模であると考えている。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		今帰仁村						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-④		今帰仁城跡周辺環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ		
						観光客の受入体制の整備		
担当部課名	建設課		事業実施 （予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－（1）		
事業内容	今泊集落内を流れる普通河川（今泊港川）を整備し、河川敷きなどの空間の有効活用、治水の安全度向上を図ることで、安全・安心な河川を再生し観光基盤を強化する。							
効果発現年度	□当年度 ■後年度（34年度）							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			26年度	27年度	27年度（繰越）	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	47,124	57,237	－	54,534	55,887	
		(b) 予算現額	47,872	54,237	－	42,076	51,516	
		(c) 増減額（b-a）	748	▲ 3,000	－	▲ 12,458	▲ 4,371	
		(d) 繰越額	－	－	17,964	－	－	
		A. 計（b+d）	47,872	54,237	17,964	42,076	51,516	
	B. 執行済額		47,872	36,273	17,964	42,076	51,480	
	うち交付金充当額		38,298	29,018	14,371	33,661	41,184	
	次年度繰越額		0	17,964	0	0	0	
	執行率（％）（B/A）		100.0%	66.9%	100.0%	100.0%	99.9%	
	予算の状況の説明		・今帰仁村内の他事業で優先的に事業費執行となったため、事業間流用により減額とした。不用額36千円については、委託費・工事費・用地費・補償費において、小額の未契約分があったことから、予算残となり、執行率99.9%となった。					
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）			達成状況				
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	・今泊港川（延長1,120m）の下流左岸部分（78m）の工事	目 標	（改修工事（左岸） L＝90m）	（左岸工事 L＝92m）	（左岸工事 L＝70m）	（左岸工事 L＝78m）		
		実 績	改修工事（左岸） L＝88mの完成	左岸工事 L＝57m	左岸工事 L＝70m	左岸工事 L＝81m		
		目 標						
		実 績						
達成状況説明	・平成29年度は、用地及び補償の交渉上問題なく推進することができ、用地費については、次年度工事範囲箇所の用地を先行取得することができた。 ・河川延長1,120mのうち河川整備工事（左岸L＝81m）を実施した。入札残もあり、当初計画していた工事延長L＝78mを達成することができた。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （30年度）
	今泊港川（延長1,120m）の下流左岸部分（78 m）の工事完了 累積整備率 34.4%	目 標		改修工事（左岸） L＝92m	改修工事（左岸） L＝70m 全体計画における6.2%整備 累積整備率 27.3%	改修工事（左岸） L＝78m 累積整備率 34.4%		
		実 績		治水安全度の向上が図られた L＝57m工事の完成	治水安全度の向上が図られた L＝70m工事の完成 全体計画における6.2%整備 累積整備率27.3%	改修工事（左岸） L＝81m 累積整備率 34.4%		
	【H34成果目標】 魅力的な景観形成が図られたか（80%以上）を含め、観光客等に対するアンケートにより本事業を検証する。	目 標					80%	
	進捗状況説明	・河川延長1,120mのうち河川整備工事（左岸L＝81m）を実施し、目標を達成することができた。累計延長386mとなり34.4%実施済みとなった。また、平成28年度の下半期において、H29年度工事箇所の用地を取得することができたことから、平成29年度は、4月～5月に発注準備を行い、6月末までに工事を発注したことで計画どおり執行した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・用地、物件補償の交渉に早期着手したことにより、工事発注を上半期に行うことができた。	・H30年度も、用地、物件補償の交渉に早期着手し、工事発注の早期執行を目指す。また、H31年度から予定している右岸側は、県道115号と係ることから、関係機関との調整を早い段階で行い改修工事を推進する。
今後の取り組み方針		
・今後は、年度計画工程表を作成し、用地交渉及び工事発注に向け、早期に取り組み事業実施を行う。また、四半期ごとに進捗状況を評価し、改善点が出た場合は早期に改善策の検討を行い、事業執行の推進を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																
<table><tr><th rowspan="2">総事業費</th><th rowspan="2">交付対象 事業費</th><th colspan="2">交付金</th><th rowspan="2">交付対象 外経費</th></tr><tr><th>充当額</th><th>市町村 負担金</th></tr><tr><td>51,480</td><td>51,480</td><td>41,184</td><td>10,296</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金		交付対象 外経費	充当額	市町村 負担金	51,480	51,480	41,184	10,296	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金		交付対象 外経費												
		充当額	市町村 負担金													
51,480	51,480	41,184	10,296	0												
今帰仁村 51,480千円 委託費 637千円 (株)大協測量設計 497千円 (社)沖縄県公共嘱託登 記土地家屋調査士協会 140千円 工事請負費 49,788千円 (有)北山建設 49,788千円 公有財産購入費 715千円 用地購入(3件) 715千円 補償・補填及び賠償金 340千円 物件補償(1件) 340千円 今帰仁城跡周辺環境整備に係る設計積算 今帰仁城跡周辺環境整備に係る用地分筆業務 今帰仁城跡周辺環境整備に係る工事請負費 今帰仁城跡周辺環境整備に係る用地購入費 今帰仁城跡周辺環境整備に係る物件補償費																
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明												
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託業者及び工事業者に関しては、指名競争入札方式で選定し、適切に執行した。 ○予算規模については、予算内で工事発注することができたことから、適正規模であった。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。												
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。														
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。														
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。														

市町村名	今帰仁村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-⑤	今帰仁城跡ガイド強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－エ			
担当部課名	教育委員会　社会教育課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界に通用する観光人材の育成			
事業内容	世界遺産今帰仁城跡では、今帰仁グスクを学ぶ会によって来場者に無料ガイドが行われている。研修等により学ぶ会の更なる強化を図ることと、ガイド個々の資質向上と、今帰仁城跡のアピールを行う。							
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）							
実施方法	□直接実施　　■委託　　□補助　　□負担　　□その他							
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,560	3,769	3,690	3,660	3,077	
		(b) 予算現額	3,210	3,690	3,690	3,660	3,077	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 350	▲ 79	0	0	0	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
		A. 計 (b+d)	3,210	3,690	3,690	3,660	3,077	
	B. 執行済額		3,210	3,690	3,690	3,660	3,077	
	うち交付金充当額		2,568	2,952	2,952	2,928	2,461	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		委託料及び施設使用料の減額により、事業間流用により適正に執行した。						
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	・案内に資する知識を得るために講演会（1回）及び研修会（2回）を開催する。	目 標	（ 講演会1回 研修会2回 ）	（ 講演会1回 研修会2回 ）	（ 講演会1回 研修会2回 ）	（ 講演会1回 研修会2回 ）		
		実 績	講演会1回実施 研修会3回実施	講演会2回 研修会4回	講演会1回 研修会2回	講演会1回 研修会2回		
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）		
		実 績						
達成状況説明	・講演会（5/13開催／191名参加）、ガイド研修会（8/6開催／15名参加、うち新人3名）、「北部の聖域を巡る」研修（12/2開催／30名参加）を開催した。他団体主催の研修会への参加、城跡等文化財散策ツアーの実施を通して、ガイドの資質向上が図られている。なお、ガイド登録人数は32名である。							
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値（ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（ 年度）
	ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	目 標	（ ）	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	（ ）	
		実 績		・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピールの実施	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピールの実施	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピールの実施		
	ガイドによる来訪者の案内	目 標	（ ）	（ 11,700名 ）	（ 11,700名 ）	（ 11,900名 ）	（ ）	
		実 績		12,782名	12,095名	12,040名		
	進捗状況説明	・講演会、研修会等の実施を通してガイドの資質向上を図り、今帰仁グスク桜祭りに合わせて実施した文化財散策ツアー等により、案内ガイドの訓練実績を重ねている。来訪者に対しわかりやすく今帰仁城跡の歴史を解説することで、今帰仁城跡のPRにつながっている。平成29年度の入場者数は前年比約2.6万人の減であったが、夏場の閑散期には積極的に来訪者に声をかけることで平成29年度の来訪者への案内は、目標数値を上回る12,040名の案内実績を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ガイド資質向上に資する講演会や研修会、イベントにあわせたガイドツアー等を実施することにより、ガイド会員の知識と案内技術の向上に努めている。 ・ガイド講座実施によって若手のガイドメンバーが増えつつあるが、依然、高齢化の問題があり、メンバー増加を推進していく必要がある。	・今帰仁城跡への入場者数は、平成29年度は減少したものの、観光誘客活動の強化により、今後は増加が見込まれる。見学に訪れた各観光客に満足してもらえるよう引き続きガイド会員の育成に取り組む。 ・若年層のガイドメンバーの増員を図るため、村民や中高生へのアプローチを強化する。
今後の取り組み方針		
・今後も講演会、研修会、見学会等を実施して、ガイド会員の知識と案内技術の向上に努める。 ・ガイド養成講座のチラシを作成し、村民に広く周知を行い、メンバーの増員及び案内実績を増やせるよう取り組む。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>3,077</td><td>3,077</td><td>2,461</td><td>616</td><td>0</td></tr></table> 今帰仁村 3,077千円 → 委託料 3,077千円 → 今帰仁グスクを学ぶ会 3,077千円 （今帰仁城跡ガイド強化にかかる委託業務）					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,077	3,077	2,461	616	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,077	3,077	2,461	616	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者である「今帰仁村グスクを学ぶ会」は、ガイド業務について約10年の実績があり、業務の計画や現場の現状に詳しく、この種の業務に精通した人員を擁しており、妥当な委託先である。 ○予算規模については、適正規模である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		今帰仁村								
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名		2-⑥		今帰仁村総合運動公園施設機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－2－(1)－イ			
担当部課名		教育委員会 社会教育課		事業実施 (予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	「スポーツアイランド沖縄」の形成		
事業内容		既存の施設を活用し、スポーツによる交流など今帰仁村を目的地とする合宿の誘致及び住民福祉の向上を図るため、総合運動公園の施設機能を強化する。 今年度は住民の福祉に資するため遊具等を設置する。								
効果発現年度		□当年度 ■後年度(H30年度)								
実施方法		■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）								
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
		予算 の 状 況		(a) 当初予算額		55,000	100,000	100,000	60,000	50,000
				(b) 予算現額		55,145	100,000	57,466	62,791	62,791
				(c) 増減額(b-a)		145	0	▲ 42,534	2,791	12,791
				(d) 繰越額		－	－	78,562	－	－
				A. 計(b+d)		55,145	100,000	136,028	62,791	62,791
		B. 執行済額		55,145	115,211	136,028	62,791	62,791		
		うち交付金充当額		44,116	92,168	108,800	55,896	50,232		
		次年度繰越額		0	0	78,562	0	0		
		執行率（％）(B/A)		100.0%	115.2%	100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		・遊具新設及び施設改修工事において日除けパーゴラ設置とコンクリート敷処理費のため、12月補正及び流用により12,791千円増額を行い、遊具サイン及び柵設置工事についても計画どおり執行した。								
活動目標 (指標) 及び達成状況		H29活動目標(指標)		達成状況						
				26年度	27年度	28年度	29年度			
		目標	(・多目的広場設計委託)	(・村営プール改修調査設計委託 ・村営プール改修工事 ・管理倉庫建設工事)	(・園内動線・外柵・遊具等測量設計委託)	(・園内動線外柵等改修工事 ・遊具整備工事)				
実績	・多目的広場設計委託の実施	・村営プール改修調査設計委託の実施 ・村営プール改修工事の実施 ・管理倉庫建設工事の実施	・園内動線・外柵・遊具等測量設計委託の実施	(・園内動線外柵等改修工事の実施 ・遊具整備工事の実施)						
達成状況説明	・「園内動線外柵等改修工事」及び「遊具設置工事」について、工事内容の組合せを変えて「遊具サイン及び柵設置工事」、「遊具新設及び施設改修工事」として執行した。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況		H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	26年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)		
		目標		()	(・村営プール改修調査設計委託の完成 ・村営プール改修工事の完了)	(・園内動線・外柵・遊具等測量設計委託の完成)	(・園内動線外柵等改修工事 ・遊具整備工事)	()		
				実績	・村営プール改修調査設計委託の完成 ・村営プール改修工事の完了	・イベント広場造成建設工事の実施完了	・園内動線外柵等改修工事の実施 ・遊具整備工事の実施			
		【H30成果目標】 ・合宿誘致団体数(本施設内クラブハウス) ・施設利用者満足度(80%)を含め、当該施設のあり方をアンケートで検証する。		目標					・23団体 ・80%	
		進捗状況説明	・園内動線外柵等改修工事について 園内動線は大型バスの通行ができるよう駐車場の一部を改修した。 柵工事は利用者の安全性を確保するために整備した。 ・遊具整備工事 遊具新設は幼児連れ家族が憩える場として整備した。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成29年度で機能強化が完了したので、今後は施設の利用促進を図る必要がある。	・合宿等の受入数及びリピーターの増加を図るべく、村内外へ機能強化された施設を周知することで利用を促進する。
今後の取り組み方針		
・施設利用による交流人口を増加させ観光産業に付随した地域活性化となるよう、学童スポーツクラブや中高の部活動及び大学サークル等の各種団体へ整備された施設をHPやチラシ等で宣伝することで合宿・キャンプ誘致等の活動に取り組む。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>62,791</td><td>62,791</td><td>50,232</td><td>12,559</td><td>0</td></tr></table> 今帰仁村 62,791 千円 工事請負費 62,791千円 (有)源建設 49,198千円 (有)島政建設 13,593千円 遊具新設及び施設改修工事に係る工事請負 遊具サイン及び柵設置工事に係る工事請負					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	62,791	62,791	50,232	12,559	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
62,791	62,791	50,232	12,559	0										

資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事事業者は指名競争入札方式で選定しており、適切に執行した。 ○予算規模については、11,000千円の増額と2,791千円の流用を行い執行したが適正な規模であったと考える。 ○費目・使途については、業務完成検査及び工事竣工検査を実施しており、目的に即し必要なものであると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村						
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦	村営闘牛場機能強化整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ア		
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度	平成28～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立		
	Ⅲ－1－（1）						
事業内容	沖縄の伝統興行である「闘牛」を後世へ継承していくため、また、地元の闘牛ファンのみならず県外観光客を呼び込むため、村営闘牛場の機能強化を行う。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（H30年度）						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,613	43,875			
		(b) 予算現額	10,800	55,375			
		(c) 増減額（b-a）	▲ 813	11,500			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計（b+d）	10,800	55,375			
	B. 執行済額		10,800	53,938			
	うち交付金充当額		8,640	43,150			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率（％）（B/A）		100.0%	97.4%			
予算の状況の説明		トイレ改修工事を執行するために、流用で11,500千円を増額した。不用額1,437千円は入札残によるものである。目標である待機小屋・トイレ・闘牛場の改修工事予算を適正に執行できた。					
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	・村営闘牛場機能強化事業における、設備工事、工事施工監理委託業務の実施	目 標	（ 測量調査設計委託 ）	（ 設備工事 ）	（ ）	（ ）	
		実 績	測量調査設計委託業務の実施	設備工事の実施			
		目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実 績					
達成状況説明	・当初より予定していた①待機小屋の改修②舗装工事③トイレの改修④闘牛場の改修などの工事を計画どおり執行した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H29成果目標（指標）		基準値（ 年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（30年度）
	村営闘牛場機能強化における、整備工事、工事施工監理業務の完了	目 標	（ ）	測量調査設計委託の完了	設備工事の完了	（ ）	（ ）
		実 績		測量調査設計委託の完了	設備工事の完了		
	【H30成果目標】年間来場者数	目 標					1,500人
	進捗状況説明	①待機小屋の改修②舗装工事③トイレの改修④闘牛場の改修などの工事が完了し、機能強化を行った。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・村営闘牛場の整備が完了し機能強化が図られたことで、県外観光客を呼び込む観光資源として「闘牛」を有効活用する準備が整った。	・団体観光客や修学旅行生などへPRを行い、体験メニューの1つとして闘牛を活用できるよう取組む。
今後の取り組み方針		
・平成30年度においては、村観光協会や他市町村、北部闘牛組合などとの連携を図ることで観光客向けに行う闘牛を体験メニューの1つとしてPRしていく。 ・村観光協会で実施している教育民泊の体験メニューとして闘牛の試合の観戦や写真撮影などを実施する。 ・平成31年度においては、年2回定期開催されている闘牛大会を年3回開催し、県外観光客を呼び込む観光資源として有効活用し、持続的な伝統興行の活性化につなげていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金 充当額</td><td>市町村 負担</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>53,938</td><td>53,938</td><td>43,150</td><td>10,788</td><td>0</td></tr></table> 今帰仁村 53, 938千円 委託料 3, 293千円 工事費 40, 645千円 (有)ヨシ企画設計 3, 293千円 (有)タマキ産業 34, 337千円 (株)SIN企画 16, 308千円 村営闘牛場機能強化整備事業監理委託業務 村営闘牛場機能強化整備事業工事 村営闘牛場機能強化整備事業工事(トイレ)					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担	交付対象外経費	53,938	53,938	43,150	10,788	0
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担	交付対象外経費										
53,938	53,938	43,150	10,788	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受注者は、指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、1,436千円を入札残によるものであり適正な規模であったと考えている。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

[illegible]

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・新たな観光地域における未整備箇所への対応が必要な箇所があり、継続的に景観形成強化事業を進めていく必要がある。	・未整備箇所への整備を進め新たな観光地域への快適な観光アクセスルートを確保する。
今後の取り組み方針		
新たな観光地域に今帰仁村内の景観に配慮した整備を進めていく。 ・排水路側溝敷設（仲宗根・上運天・運天・古宇利） ・簡易舗装（崎山・仲宗根） ・張りコンクリート（仲宗根・渡喜仁）		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位: 千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
		51,375	51,375	

今帰仁村
51,375千円

工事請負費
28、458千円

委託費
22,917千円

(株)SIN企画
6,804千円

(有)平山工務店
21,654千円

(株)沖縄土木設計コンサルタン
9,061千円

(株)大望エンジニアリング
13,856千円

村道平敷伊豆味線張りコン設置工事

平敷幹線農道張りコンクリート設置工事

村道古宇利渡海線道路詳細設計委託業
務

仲宗根地区排水路道路詳細設計委託業
務

資金 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村の契約規則に基づき、工事請負業者は指名競争により入札を行い、妥当であった。 ○予算規模は設計額に基づき発注しており適正な規模である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村							
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-①	今帰仁村優良繁殖雌牛導入支援事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア			
担当部課名	経済課	事業実施 (予定)年度	平成26～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備		
事業内容	安定した素牛生産地の確立のため、今帰仁村和牛改良組合による沖縄県農業協同組合からの貸付牛の導入に対して補助する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	10,500	10,500	10,500	7,500		
		(b) 予算現額	10,252	10,139	10,199	7,500		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 248	▲ 361	▲ 301	0		
		(d) 繰越額	-	-	-	-		
		A. 計 (b+d)	10,252	10,139	10,199	7,500		
	B. 執行済額		10,252	10,139	10,199	7,500		
	うち交付金充当額		8,201	8,111	8,159	6,000		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		・当初計画通り、牛の導入について補助を行った。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	・繁殖牛を導入する際に1頭あたり50万円を上限に支援を行う	目 標	1頭あたり50万円を上限に補助	1頭あたり50万円を上限に支援	1頭あたり50万円を上限に支援	1頭あたり50万円を上限に支援		
		実 績	1頭あたり50万円を上限に補助の実施(平均1頭41万円)	1頭あたり50万円を上限に支援の実施(平均1頭44万円)	1頭あたり50万円を上限に支援の実施(平均1頭48万円)	1頭あたり50万円を上限に支援の実施(平均1頭50万円)		
達成状況説明	・当初計画通りの15頭の優良な繁殖素牛を県内外から導入することが出来た。牛全15頭とも、購入費用が100万円を超え、1頭あたり50万円の補助となった。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	・繁殖牛 15頭導入 ・全体計画のうち 導入率8.8% ・累積導入率(84頭) 49.4%	目 標	()	21頭導入 (導入率:12.5%)	21頭導入 (導入率:12.4%) (累積導入率(67頭):39%)	15頭導入 (導入率:8.8%) (累積導入率(84頭):49.4%)	()	
		実 績		23頭導入 (導入率:13.6%)	21頭導入 (導入率:12.4%) (累積導入率(69頭):40.6%)	15頭導入 (導入率:8.8%) (累積導入率(84頭):49.4%)		
	【H30成果目標】 導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合109%以上		目 標					109%
	進捗状況説明	・平成29年度において、全体計画の8.8%の15頭を導入することが出来た。 ・今年は昨年度より6頭少ない導入であったが今後は全体計画頭数導入に向けて21頭を導入していく。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・事業実施にあたり、昨年同様繁殖素牛の価格高騰が続いている状況である。 ・事業開始から4年経過し、実施農家も増えたことから事業実施前と比べ母牛平均年齢及び、母牛平均得点について全国平均よりも良い数値となったが未だ実施していない農家もある。	さらなる安定した生産地の確立を図るためにはより多くの農家に対し優良な母牛の導入支援を行うことが必要であることから、導入計画頭数の見直しも視野に入れ事業を実施していく。
今後の取り組み方針		
さらなる母牛の更新、母牛得点の向上を図りつつ、将来にわたって継続的かつ安定的な生産地の確立に繋げるため事業導入牛の優良系統を引き継ぐ産子の保留を推進していく。 また、安定した生産地確立に向け県内外の優良雌牛の情報収集に努めつつ、今後の計画についても和牛改良組合、JA、関係機関を含め情報交換行う中で検討していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>18,305</td><td>7,500</td><td>6,000</td><td>1,500</td><td>10,805</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	18,305	7,500	6,000	1,500	10,805
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
18,305	7,500	6,000	1,500	10,805										
今帰仁村 7,500千円 補助金 7,500千円 沖縄県農業協同組合 7,500千円 （今帰仁村優良繁殖雌牛導入支援事業に関する補助金 （受益者負担額：10,805千円）														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○沖縄県農業協同組合は実績もあり村和牛改良組合とも連携を図れることから妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、昨年から減ったが今後の計画頭数を勘案すると適正規模であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担は、10,805千円となっており負担関係は妥当だと考えている。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											

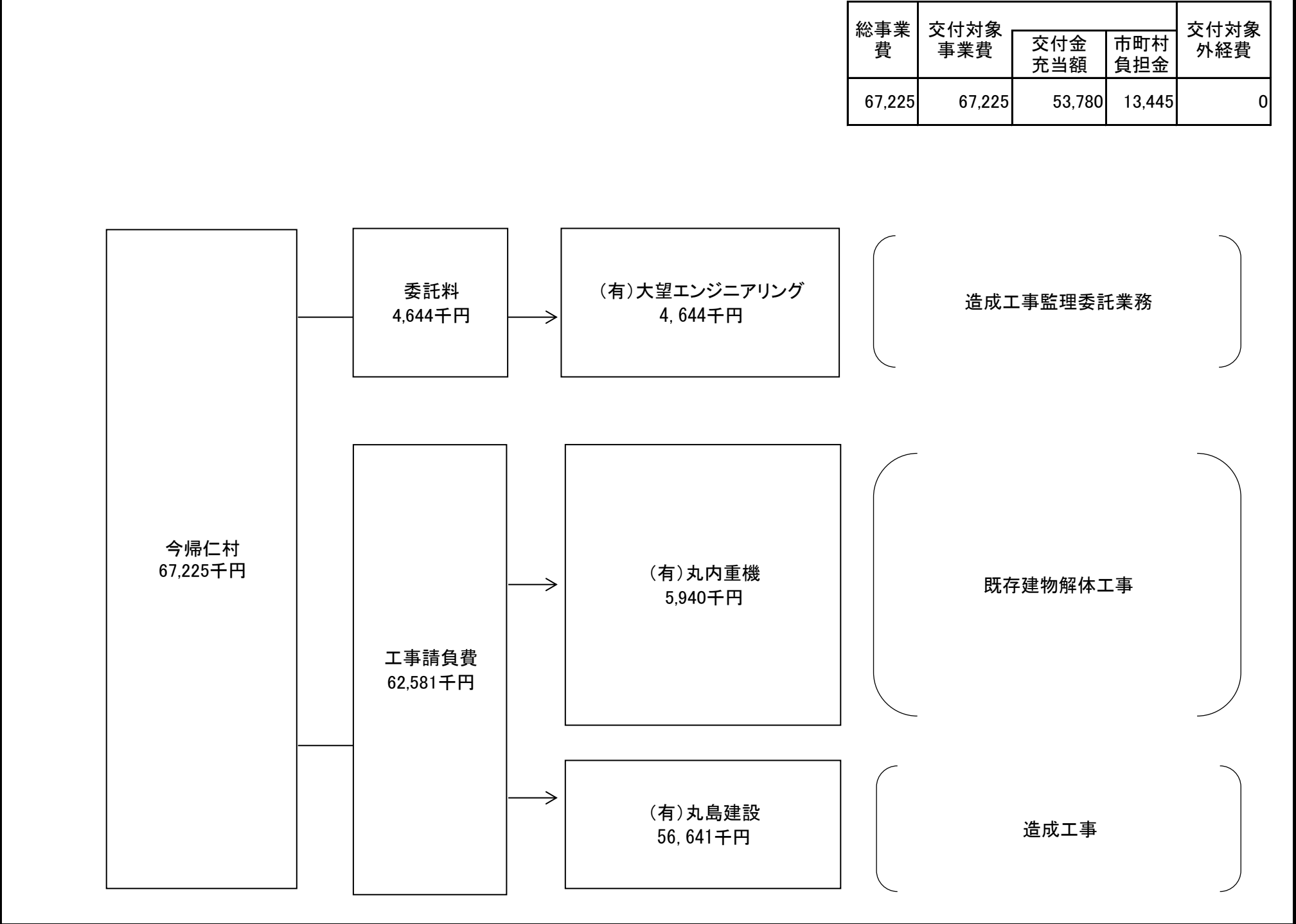
市町村名		今帰仁村					
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	幼保連携一体化施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－2－(2)－イ		
					地域における子育て支援の充実		
担当部課名	幼保連携推進室		事業実施 （予定）年度	平成27～30年度	沖縄振興基本方針 該当箇所		
Ⅲ－4							
事業内容	本村独自の地域一貫型教育システム「北山学園プロジェクト」を構築し、就学前子どもを持つ家庭の育児支援や連続性のある幼児教育、保育環境を創出し、保育サービスの拡充と地域の子育てニーズや新制度に対応したバランスのとれた総合的な子育て支援を行うため、就学前の幼児教育・保育を一体的に担う「幼保連携一体化施設」の整備を行う。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度（31年度）						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	8,986	110,934	68,832		
		(b) 予算現額	8,856	83,453	68,832		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 130	▲ 27,481	0		
		(d) 繰越額	-	-	-		
		A. 計 (b+d)	8,856	83,453	68,832		
	B. 執行済額		8,856	83,453	67,225		
	うち交付金充当額		7,084	66,762	53,780		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	97.7%		
予算の状況の説明		不用額1,607千円については、委託の受託事業者価格提示によるもの及び施設使用料の減額によるものであり、適正に執行した。					
活動目標（指標）及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	・幼保一体化施設の造成工事及び施工監理の実施 ・既存施設の解体工事及び施工監理の実施 ・浄化槽撤去及び新設工事	目 標	（ ・基本計画の検討 ）	・実施設計、用地測量及び地質・磁気探査、造成設計の業務委託は発注	・造成工事及び施工監理の実施 ・解体工事及び施工監理の実施 ・撤去及び新設工事の実施	（ ）	
		実 績	・基本計画の策定	・実施設計、用地測量及び地質・磁気探査、造成設計の業務委託の完了	・造成工事及び施工監理の完了 ・解体工事及び施工監理の完了 ・撤去及び新設工事の完了		
達成状況説明		・造成施工監理は平成30年3月20日に業務完了した。 ・解体施工監理については、今回行った解体工事は特殊な工事ではなかったため、解体施工監理は発注せず、工事請負業者の現場代理人及び工事監督員による監理を行った。 ・解体工事は平成29年11月20日、造成工事（浄化槽設置・撤去工事含む）は平成30年3月20日に業務完了した。 ・「幼保連携一体化施設」とは、保育所と幼稚園の機能を合わせもつ幼児教育・保育施設（幼保連携型認定こども園）である。本村では保・幼・小・中・高の一貫教育「北山学園プロジェクト」を進めており、同施設は保・幼・小の校種間連携の中心施設として位置図けている。					

H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (31年度)
成果目標 (指標) 及び進捗状況	・幼保一体化施設の造成工事及び、施工監理の完了	目 標	()	(基本計画の決定)	・幼保連携一体化施設の実施設設計及び造成設計の完成	・造成工事及び、施工監理の完了	()
		実 績		基本計画の決定	・幼保連携一体化施設の実施設設計及び造成設計業務の完了	・造成工事及び、施工監理の完了	
	・既存建物の解体工事及び、施工監理の完了	目 標	()	()	・幼保連携一体化施設予定地の用地測量及び地質・磁気探査の実施	・解体工事及び、施工監理の完了	()
		実 績			・幼保連携一体化施設予定地の用地測量及び地質・磁気探査業務の完了	・解体工事及び、施工監理の完了	
	・浄化槽撤去工事及び、新設工事の完了	目 標	()	()	・幼保連携一体化施設予定地の用地購入及び登記の完了	撤去工事及び、新設工事の完了	()
		実 績			・幼保連携一体化施設予定地の用地取得及び取得用地の登記完了	撤去工事及び、新設工事の完了	
	【H31成果目標】 待機児童数	目 標					0名
	進捗状況説明	・幼保連携一体化施設予定地にある既存建物の解体工事及び、予定地の造成工事(浄化槽設置・撤去工事含む)、造成工事に伴う施工監理を完了した。よって、平成30年度には外構・園舎建築工事を計画どおり実施が可能となった。 ・解体施工監理については、今回行った解体工事は特殊な工事ではなかったため、解体施工監理は発注せず、工事請負業者の現場代理人及び工事監督員による監理を行った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・前年度に策定した造成設計をもとに、造成工事及びそれに伴う施工監理を実施した。 ・解体工事については、財産処分の手続きに時間を要し、発注に遅れが生じたが、造成工事の工期を確保できる時期までに発注し完了した。	・平成29年度の業務については、計画どおり進んでいる状況にあり、今後も計画どおり平成31年4月1日の開園に向け、外構、園舎建築工事を実施していく考えである。
今後の取り組み方針		
・平成30年度は、平成28年度に策定した土木測量設計及び地質・磁気探査と実施設計をもとに、5月に幼保連携一体化施設の園舎工事に着手し、9月には外構工事及び備品を発注する。 ・平成31年3月に園舎工事を完了させ、翌月の4月1日には開園予定である。		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者及び工事請負業者は、村の契約規則に基づき、指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、入札残及び精算による減額であり適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途については、業務完成検査を実施しており、目的に即し必要なものであると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	